駒来塾で学ぶ楽しさ知って

小牧 月2回、中学生向け無料支援教室

小牧市の中学生向け学習支援事業「駒来塾」の教室が毎月二回ずつ、市内の一部の中学校を対象に東部市民センター（篠岡二）と北里市民センター（下小針中島二）で開かれている。学ぶ楽しさを感じてもらおうと、生徒一人一人に学習指導員が寄り添う家庭的な雰囲気を大切にしている。（藤原啓嗣）

駒来塾は、意欲はあるのに家計が苦しくて学習塾に通えない生徒や学校の授業に付いていけない生徒を支援しようと八月、モデル的に二カ所で始まった。担当する市こども政策課は夏休み前に当該地区の中学校にチラシを配り、希望者を募った。東部では二十人、北里では八人の生徒が通い、主に数学と英語を学ぶ。生徒には千円の手当がでる。

教室は毎回一時間半で、講師は教員OBらの学習指導員十八人と大学生や高校生の学習サポーター十七人。生徒は受講無料で、講師の教員OBらには時給千四百八十円、学生は時給千四百八十円、学生には千円の手当がでる。

上生徒の不得意な分野を見極めて、優しく教える冨田さん㊨　下生徒に教えていて気付いた点を冨田さん㊧に報告する大学生のサポーター＝いずれも小牧市の東部市民センターで

今月二十六日午後六時半、東部市民センターの学習室と視聴覚室で数学と英語の教室が始まった。参加した十八人の生徒が三人ずつを基本にまとまって座ると、ひとまとまりに一人の講師が付く。

教室のモットーは、生徒の全てを認めて決して怒らないこと。基本が分かっていないと判断すれば、九九など小学生の単元から見直すなど柔軟に対応している。

生徒は配られたプリントの問題を解き、疑問はその都度聞いて、解決していく。「小数の割り算は最初に小数点を払おう」「分数の計算は分母をそろえて」。和やかな雰囲気の中、講師のアドバイスが続く。

外国籍の子どもには、学習で使う日本語の意味も丁寧に教える。

受講する中学二年の女子は「教える人たちが優しくて、質問しやすい」とやる気を見せる。

子どもたちが帰ると、担当した生徒の課題を共有するための反省会。「マイナスとマイナスをかけるとなぜプラスになるか、工夫して分かってもらいたい」「欠席が続いて心配だったが、集中して勉強していてほっとした」と感じたことを講師らが発表した。

サポーターの一人で、教師を目指す県立大三年の藤井優香さん㈡は「教員になったとき、勉強に遅れた子どもを見逃したくない」と表情を引き締める。

愛知教育大の非常勤講師で、東部の塾長を務める冨田賢史さん㈥は「子どもの中には人間関係でも困難を抱えている場合がある。それぞれの事情をわれわれが理解し、知的欲求をかなえてあげたい」と話した。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています